



“By Love Serve”

名古屋柳城女子大学・名古屋柳城短期大学

# ちゃべるにゅーす

第36号 2022年12月21日

巻頭言

「いつも・子どもを・中心に」

学長 菊地伸二

クリスマスが近づくと思い出すクラシック音楽のひとつに、ヘンデルの「メサイア」があります。その中に含まれる、救い主の誕生を指し示す「イザヤ書」9章5節を曲にした「私たちのためにひとりのこどもが生まれた For unto us a child is born ♪」の音楽が、この頃になると、わたしの頭のなかでは何回も鳴り響き、それとともに、ひとりの赤ちゃんとして誕生したイエスさまを中心に、それを取り囲む人びとの姿もまた浮かんできます。

\*

誕生してから30年。成長したイエスさまは、「神の国はこのような者たちのものである。……子どものように神の国を受け入れる人でなければ、けっしてそこに入ることはできない」(「マルコによる福音書」10章14-15節)と語りました。

この場面は、イエスさまの話を聞こうとする弟子である大人と、大人の間からはそれを妨げるように思われた子どもの姿が対比的に描かれています。

イエスさまは、子どもを追い払って自分の言葉を聞こうとした弟子たちを叱責し、むしろ子どもといっしょにいることを優先して、子どもを大人の中心に連れてきて、先ほどの言葉を語ったのでした。

\*

フランスの作家であるアントワーヌ・ド・サンテグジュペリの『星の王子さま』という作品は、まだ6歳だったころの主人公のぼくのエピソードから始まります。

象を呑み込んでいる巨大な蛇の姿の恐ろしさを何とか絵にしようと思い、それを描いて親に見せたところ、親にはただの帽子の絵としか受けとってもらえず、その恐ろしさがまるで伝わらなかったばかりか、そんな絵を描くひまがあるならば、勉強なさい、と言われるありさまで、それ以来、ぼくは、そのような「大切な」話は、大人には一切しなくなったというエピソードです。

\*

「わたしたちの一番大きな源は子どもの心です。」

この言葉は、ミッキーマウスやドナルドダックの生みの親であり、ディズニーランドの創設者であるウォルト・ディズニーのものでした。

誰かといっしょにいつまでもいたくなるような場所を考えようとするとき、その中心には、いつも子どもの存在があるということを、ディズニーは教えてくれます。

\*

この世に生まれてきた子どもにとって、社会生活においてはじめて出会うのが保育者です。

『星の王子さま』のぼくのように、子どもが周囲の大人に心を閉ざすことがないように、あるいは、イエスさまの弟子たちのように、子どもを周辺に遠ざけることのないように、保育者を目指す人は、子どもという存在をいつも中心におきながら、子どもの

心をいつでも考えられる人であってほしい、そのように願っています。

\*

ひとりの赤ちゃんを中心に、人びとが取り囲むお祝いでもあるクリスマスを迎えるにあたり、このような思いが、わたしの頭のなかを駆け巡りました。

### 「なぜ怖がるのか」

マルコによる福音書 4：35－41

相原太郎チャプレン

今年も新型コロナウイルスに翻弄された1年でありました。学生の方々にとりましては、ただでさえ不安定な学生生活に、誰も経験したことのないパンデミックが直撃し、これまでの常識が一切通用しないような大変な日々を過ごしてこられたのではないかと思います。そうした中であって、クリスマスの光が、新たな年への希望の灯火となればと願います。

聖書にこんなストーリーがあります。船に乗って湖の向こう岸に向かうイエスと弟子たちが嵐に巻き込まれ、しかしイエスによって嵐が鎮められて無事に向こう岸にたどり着く、というものです。

この物語を譬え話として考えると次のようになります。「向こう岸」とは、あまりイメージの良くない異国の地を意味します。「嵐」は弟子たちの困難や心の揺れを表しています。するとこの物語は、慣れ親しんだ場所を離れ、見知らぬ場所に向かう時には様々な困難や動揺が襲いかかるけれども、イエスが共にいてそれを乗り越えることができる、ということになります。

当時ユダヤの人々は、異国の人々について、社会的にも宗教的に強い差別意識がありました。しかしイエスは、そうしたユダヤ人の価値観、常識、慣習を打ち破り、差別されていた外国の人々と親しく交わりました。したがってイエスと行動を共にするということは、自分の中にある古い価値観を相対化す

ることになります。そのことによって、社会から不審な目で見られ、場合によっては自分も差別を受けることもあります。

弟子たちは異国である向こう岸に向けて船出しますが、嵐にあって船が転覆しかけます。このことは、異国に対する偏見を持つこれまでの生き方と、新しい生き方との間で揺れ動く弟子たちの動揺、心の揺れを表しているといえることができます。

その時、船の中で寝ていたイエスが起こされます。聖書において、イエスが起こされるとは、イエスが神によって復活させられることを連想させます。そのようにして起こされたイエスは、弟子たちに「なぜ怖がるのか」と、弟子たちの動揺を拭き去るように語りかけ、古い価値観に縛られていた弟子たちの心を解き放ちます。

私たちも人生の中で、嵐と言えるような、様々な困難や不安に直面することがあると思います。進学や就職など、人生の転換期において、これまで自分が当たり前だと思っていたことが崩れ、自分がどこに向かえばいいのかわからなくなってしまうこともあると思います。

そんな時、イエスは私たちの間におられ、「なぜ怖がるのか」と呼びかけられます。そのようにして、神は、新たな地への航路を、常に私たちと共に進んでくださっていることを覚えてたいと思います。



中庭に集う柳城生

(奥に見えるのは、シンボルツリーの柳)

礼拝から

## 「趣味」と向き合う

名古屋柳城女子大学 菊地篤子 准教授

こんにちは、菊地篤子と申します。本日のお話の担当をさせていただきます。と申しまして、実際何を話せばよいかかわからず、下原先生にお尋ねしたら「なんでもよいですよ。趣味のこととか」とおっしゃいました。そこで思ったのは、趣味について人に尋ねられたのは何年ぶりだろうかということです。しばらくの間、人に趣味を聞かれるような生活をしてこなかったことに気づきました。仕事や家事・子育ての中で、「だれがどんな趣味を持っているか」あまり必要のない情報なのではないでしょうか。つまり「趣味」について人に話す機会自体が久しぶりになります。

ところで、自分の趣味を人に語るというのは、部屋の中を覗かれるような気恥ずかしさを覚えるものです。なぜでしょう。おそらく「自分の内面の一部を外に出す作業だから」なのではないでしょうか。言い方を変えると「自分が何者か」、つまり自己(アイデンティティー)の表出だから気恥ずかしく感じるのかな、と思いつつ、今回はこれを少しお出ししようと思います。

「趣味」とは、辞書には「職業としてではなく、個人が楽しみとしている事柄」と書かれています。英語では「hobby」や「interest」があげられますが、本日ご紹介する私の趣味は「interest(興味を持って行う趣味)」に当てはまると思います。自分のライフステージとともに付き合い方が変化してきた「観劇」中でも「ミュージカル観賞」を紹介致します。

出会いは小学生のころで、おそらく最初は「ウエストサイドストーリー」だったと思います。バレエを習っていたことから舞台への馴染みがあり、とても楽しい観劇体験でしたが、地方在住ということもあり当時はなかなか機会を得られませんでした。本

格的に楽しむようになったのは、大学時代です。「宝塚ファン」「劇団四季ファン」の友人の影響で数回一緒に出掛けました。中でも大学の卒業旅行の際、ロンドンで「オペラ座の怪人」を観たことは得難い体験で、他にももっと観たいと思うようになりました。それがきっかけで大学院生になるとすぐに一人観劇をするようになりました。特に劇団四季の舞台は頻繁に通いました。いくつか紹介します。

一つ目は「クレイジー フォー ユー」です。ガーシュウィンの楽曲で、Boy Meets Girlの軽快なストーリーです。タップダンスが多く、リズムカルで元気で明るい演目で、若い頃は最もよく観に行きました。二つ目は「オペラ座の怪人」です。アンドリュー・ロイド・ウェーバーの楽曲で、ストーリーは暗いのですが、曲や歌が好きでした。三つ目は、同じくアンドリュー・ロイド・ウェーバー楽曲の「CATS」です。おそらく一番回数を重ねて観ている演目です。当初、あまりにメジャー過ぎて興味を持つことができずにいたのですが、叔母の「猫の世界に人間社会の縮図が見える」という言葉に誘われ観たのち、何度も通うようになりました。「CATS」は時代によって少しセリフが変わったり、演出も徐々に変化します。ロンドンのオリジナルの舞台と同じだったり、日本独自の曲・ダンス・演出になっていたり、公演地域で舞台背景が変わったりするなど、時代、場所などで異なった楽しみ方ができます。

他の演目を含め、国内だけでなく海外でも、旅のついでに観に行きましたが、そこで感じたことは「海外ではチケットがすぐ手に入り、身近な文化である」ことでした。日本は、半年後のチケットの予約はよくあることですし、人気のものはなかなか手に入らず、関係のある会員登録が必要なことも多いのが実情です。

さて、こののち妊娠出産を境に、しばらく「冬眠期」に入ります。時間的にも経済的にも、やはり無理でした。それでも子どもが小学生の頃までは「ライオンキング」や「裸の王様」など子どもにもわかりやすそうな演目を選んで出かけていました。しかし、中学生になると部活などが多忙でそれもなくなくなりました。家族で観劇をすると1回数万円かかり、

かつ、地方在住だったので一日がかりになってしまいます。こうなると趣味はもはや一大イベントと化し、当然継続性はありませんでした。だからといって家族を放って一人で出かけようとも思わなかったため、子どもたちの受験がすべて終わるまでのおおむね約10年は「冬眠」状態でした。

子育てがある程度ひと段落したのが一昨年で、そのころ高校時代の友人が誘ってくれたことをきっかけに少しずつ「リハビリ」のような感覚で観劇を始めました。驚いたことは、チケットの取り方が10年で激変し、スマホで、ネットで取るようになっていたことです。また、大好きだった役者さんが演出・振り付け担当になっていたことにも時の流れを感じました。この年数回の観劇が叶いましたが、やはり地方住民にとっては大変な労力を伴いました。それでも「これからもっと遠征して楽しもう」と思っていたところ、コロナ禍に突入しました。

コロナ禍の観劇の中心は「オンライン観劇」です。この3年で数作品見る機会がありました。オンライン観劇のメリットは、何といてもチケットは売り切れが無く、そして安価です。移動時間もないので時短観劇が可能です。また多くの場合一定期間の繰り返し視聴が可能で、気に入った場面を何度でも楽しむことができます。一方、デメリットは臨場感が激減することです。ただ「観た」だけ、ともいえるかもしれません。実感したことは、オンライン観劇は「本物の舞台への興味を保つための“つなぎ”」なのではないか、ということです。実際「生の舞台を観に行きたい！」という欲求はむしろ強くなり、集客制限がある中での観劇を実際に数回体験しました。そこには独自の臨場感がありました。観客は普段より大きめの身振りで拍手をしたり手を振って声以外の手段で感動を伝えたりしていましたし、演者の方々もこの時間を一緒に盛り上げよう、という気概が伝わるようなパフォーマンスだったりするなど、演者と観客の一体感のようなものを味わうことができました。

今回これまでの自分の観劇を振り返って思ったことは、趣味を楽しむには「余裕」が必要だということです。時間や経済面もそうですが、もっとも大

きいのは「精神的な余裕」だということです。話す内容を整理しながら「現在、私は精神的な余裕を持っているらしい」と自覚することができました。これは自分の趣味から全く遠ざかっていた時代があったからこそ感じることで、現在、様々なめぐりあわせでこの状況にいることに、ありがたみを実感しています。

さらに、現在になって趣味が拡大しつつあります。今どきの言葉でいう「推し活」の体験です。あるお気に入りの俳優兼演出家さんの活動を、様々な情報網を駆使して追うことを自宅にしながら楽しんでいます。「舞台を観に行く」以外にも観劇の楽しみ方があることを知り、一層趣味に深みが増しました。

今回、自分の観劇の変遷を振り返りまとめるのは楽しい作業でしたし、これを「楽しい」と思えてよかったです。おそらく少し前だったら、行けない・我慢・諦め等というマイナスワードが紐づいていたに違いありませんし、そもそも趣味の話をしようとする思わなかったでしょう。とても前向きな気持ちをいただいた時間となりましたことに感謝申し上げたいと思います。



中庭花壇のオブジェ

礼拝から

## 「人生が豊かになる映画」

総務課 神戸厚

こんにちは、総務課の神戸です。

本日はお話をさせていただく時間を頂きましたので「人生が豊かになる映画」をご紹介しますと思います。

私は、昔から映画が、好きで色々と見ていました。昔は、TV で映画を放送する機会が多く特に、「日曜洋画劇場」の解説者 淀川長治さんの解説を一週間の楽しみにしていました。また、エンディングを聞くと日曜日の終わりを感じ、残っている宿題を思い出し心がブルーになる事も多々ありました。この話は少し年を重ねている人しかわかりませんね。失礼しました。

原稿の関係で、全てご紹介できませんので当日お話しした映画のタイトルをまず紹介します。

- ①「きっと うまくいく」
- ②「ショーシャンクの空に」
- ③「天使のくれた時間」
- ④「クレヨンしんちゃんオトナ帝国の逆襲」

とても素敵な作品です是非ともご覧ください。また、YouTube での映画紹介がとても印象に残りましたので YouTube からの内容引用もさせていただいています。YouTube さんありがとうございます。

その中からチョット珍しいインド映画をご紹介します。タイトルは「きっと うまくいく」です。インド映画といえば、私の中では、歌って踊ってしかイメージがありませんでしたが、この映画は、歌って踊っても少しありますが、スティーブン・スピルバーグ監督が 3 回見たというほど、評価の高い面白い作品です。この映画から感じることは、「競争社会の中での、正しい人生の生き方を知ることができる」です。物語は、インドのエリートを養成する鬼学長のいる大学で、ちょっと変わった 3 パカトリオがたくさん騒動を起こします。

まず前提として、インドというのはものすごく競

争社会だそうです。貧乏から成り上がるにはエンジニアか医者になるという選択肢しかないほどです。主人公たちのいるエリート学校の子たちもみんな必死で勉強します。主人公のランチョーは一見勉強していないように見えても、そのエリート学校のテストでは、ガリ勉くんを抑えて 1 位になります。その 1 位になった時にランチョーはこう言います。

「なぜ私が試験で 1 位になったか分かるか？エンジニアリングに情熱があるからだ」と。生徒たちはみんないい点数を取って、人を蹴落としてでも自分が上に行くために、勉強を頑張っています。でも主人公のランチョーは違いました。ただ単に「エンジニアリング」を面白くて、それだけのために夢中になって学んでいたのです。

他人に勝とうとしてやってる人、自分が好きだから夢中でやっている人、2 者の取り組み結果に差が出るのは当たり前ですよね。Apple の共同設立者「スティーブ・ジョブズ」がスピーチで言ったように、「まず人生で夢中になれることを見つけろ」というのは、何よりも大切なことだと思います。

勉強で何かを学ぶというのは人を蹴落とすためにやるのではなくて、学ぶこと自体が面白いから、新しいことを知ることが楽しくてやることだと思います。もう 1 度子供の頃に戻ったつもりで、新しい何かを知るの楽しいという、学びの原点に戻っていくべきだと思います。

・競争する人と比べることに、ずっとこだわって生きていくのか？

・夢中になれることをやって生きていくのか？

どちらの方が幸せな生き方でしょうか？

しかし、この映画には難点があります。上映時間が長いことです。3 時間ぐらいあるので、時間に余裕がある時にゆっくり鑑賞してくださいね。



学校行事

## 「創立記念礼拝・墓地礼拝」

名古屋柳城女子大学 高瀬慎二

柳城学院では11月1日の創立記念日に創設者のマーガレット・ヤング先生や学院に関わる人々のことを覚え、礼拝をお捧げしています。第1部では後藤香織司祭司式、相原太郎司祭補式の下、礼拝が行われました。菊地伸二学長の式辞の中ではヤング先生が日本に來日した1895年から去るまでの27年間に綴られた書簡や報告書の一部について紹介がありました。一番古い書簡の中では、ヤング先生が当時の女性や子どもの置かれた立場について胸を痛める様子について書かれています。カナダでフレーベルの幼児教育を学んでいたため、その経験を幼児教育の場で貢献できるのではないかと考えたものと推測され、そこから現在に至る柳城の歴史が始まりました。

第2部では附属豊田幼稚園の澤田二三夫園長が「未来を拓く子どもたちのために ～持続可能な『保育のお仕事』めざして～」と題して講演をしてくださいました。子どもを預ける家庭が増加している一方で、少子化によって閉鎖する幼児教育施設も増加していくと見込まれる中で、子どもたちのために幼児教育や保育に関わる柳城学院がどのように携わっていき、何をすべきなのかについて示唆をいただきました。園長先生は以前、附属幼稚園の隣にある小学校で校長先生をされており、宿題をなくすなど「破天荒」な校長先生としても知られています。「破天荒」というと無茶をするといった意味で捉えてしまいがちです、本来は前人未到の境地を切り拓くことを意味します。そうした先生の破天荒な視点から幼児教育に関する仕組みの問題点などを取り上げ、お話をさせていただきました。

創立記念礼拝の後にヤング先生の眠る名古屋市内の八事霊園に宗教委員の学生と教職員が参加して墓地礼拝を執り行いました。柳城学院の創設者であるヤング先生は1891年に起きた濃尾大震災を

きっかけにカナダからの來日を決心したと伝えられています。学長の式辞でも述べられているように1895年に宣教師として來日されましたが、飛行機ですぐに移動できる現在とは異なり、数か月にも及ぶ船旅はまさに命がけの旅路であったことでしょう。また、家族や友人と離れ、見知らぬ国へと旅立つことには日本での宣教に対する強い意志があったといえども、心細さもあったことでしょう。日本に着いたヤング先生は、男尊女卑の考えが色濃い当時の日本での子どもや女性の立場に対する現状を嘆き、そうした子どもやその母親たちへの教育の必要性から幼稚園とそこでの教育を担う保姆を育成する施設を1898年に創設することとなり、それが柳城学院の起点となりました。当時の日本では物珍しかった幼稚園での教育や「母の会」と呼ばれる母親の教育の機会は評判となっていたようです。日本でのこれらの活動の後、カナダへ一度帰国されたヤング先生でしたが、晩年は愛された日本へと再度やってくることとなります。來日時に既に体調のすぐれなかったヤング先生にとっては、カナダでの知人との別れは永遠の別れを意味するものでもありました。來日後亡くなり八事の墓地に埋葬されることとなります。大学・短大、幼稚園と墓地とは空間的には異なる場所にありますが、日本の初期の幼児教育の発展のために長年、命をかけて尽力くださったヤング先生やその想いを礎にして柳城学院は建っています。その礎の原点となるヤング先生が眠る場所で毎年墓地礼拝が行われており、120年以上後の現在に至るまで連綿とヤング先生の意志が息づいていることを気づかされます。

墓地礼拝の終了後は、ヤング先生や柳城学院の関係者の墓前に献花を行いました。



## クリスマスに関連した催し

### クリスマス展（1月初めまで）

イエス様の誕生をお祝いするためにチャペルやラーニングcommonsを主に学内のあちこちでクリスマスに関連した飾り付けがされています。リースやツリー、降誕場面の人形、サンタの煙だし人形、アドベントカレンダーなど多くの種類が展示されています。展示の中には南米やアフリカの降誕人形など珍しくて変わったものもありますよ！国に合わせて表情も様々です。お気に入りの一品を見つけに学内やチャペルを探訪してみてもいいでしょうか？



サンタの人形、マトリョーシカ



降誕人形

### クリスマス・ツリー点灯式（12月7日）

玄関入口のクリスマス・ツリーの点灯式を行いました。聖歌隊の皆さんの歌声も響き渡っていました。暗闇を照らすキャンドルとツリーの光がきれいですね！



点灯式の様子



点灯式の終わった後で…

名古屋柳城女子大学・名古屋柳城短期大学  
2022年度 宗教委員会

チャプレン 司祭 アンブロジーア 後藤香織  
司祭 ヨハネ 相原太郎

委員長 高瀬慎二(女子大学)  
柴田智世(短期大学)  
菊池理恵(短期大学)  
菊地篤子(女子大学)  
三輪雅美(女子大学)  
関綾子(短期大学)

担当事務 加藤実治(総務課)  
神戸厚(総務課)

2022年12月21日発行  
ちやべるにゅーす 第36号

発行所:名古屋市昭和区明月町 2-54  
名古屋柳城女子大学  
名古屋柳城短期大学

発行者:名古屋柳城女子大学  
名古屋柳城短期大学  
宗教委員会・キリスト教センター